

構造改革を完遂し、その先の成果と UACJ VISION 2030の実現に向けた基盤の確立へ

■位置づけと重点方針

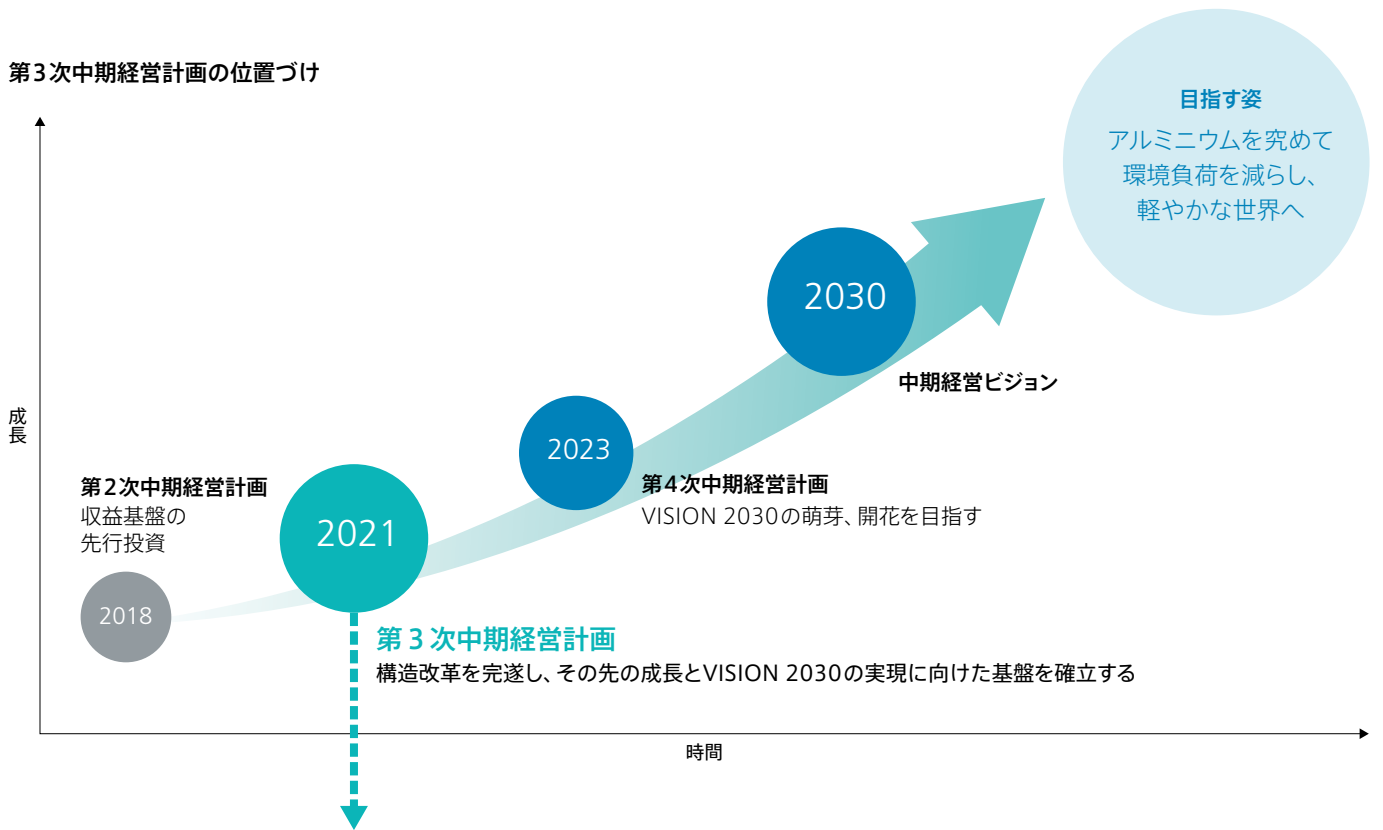
2021年度からスタートする第3次中期経営計画は、長期経営ビジョン「UACJ VISION 2030」を実現するための基盤強化の3カ年計画としています。その重点方針は、「構造改革の完遂」「成長への基盤の強化」「軽やかな世界の実現への貢献(サステナビリティ推進)」の3つです。

特に基盤強化においては、2019年度に着手した構造改革の完遂が重要であり、計画している施策をこれまで通りやりきるとともに、構造改革効果を着実に積み上げていきます。

また、成長への基盤の強化として、成長市場(北米・東南アジア)、成長分野(缶・自動車)に引き続き注力するとともに、“素材+α”の価値提供や新領域の創出、人や技術などの支える基盤の強化に取り組んでいきます。

さらに、マテリアリティの一つとして特定した気候変動問題への対応として、アルミニウムのリサイクルシステムをサプライチェーン全体で共創していきます。

第3次中期経営計画の位置づけ



重点方針

1 構造改革の完遂

- 稼ぐ力の向上
- 財務体質の改善
- マネジメントの仕組みの強化

2 成長への基盤の強化

- 付加価値の向上
- 成長市場・成長分野への注力
- 新規領域の創出
- 支える基盤の強化

3 軽やかな世界の実現への貢献

(サステナビリティ推進)

- 気候変動問題への貢献

■財務・非財務目標

北米を中心に缶材需要が大変旺盛であり、TAA※1やUATH※2で増強してきた生産能力を最大限に活用することなどで、売上高目標を達成する計画です。また、利益については構造改革効果を発現することなどで目標値を目指します。

なお、ROEとROICについては必ずしも満足できる水準ではないと考えていますが、第3次中期経営計画はあくまでも基盤

強化に主眼を置き、第4次計画において、さらなる資本効率の改善を目指していきます。

そして、当社では初めて中期経営計画の中に非財務目標を掲げました。いずれも特定した6つのマテリアリティに紐づき、基盤強化に欠かせないものとして目標達成に向けて取り組んでいきます。

※1 Tri-Arrows Aluminum Inc. ※2 UACJ (Thailand) Co., Ltd.

財務指標

	2023年度
売上高	7,000億円
営業利益	300億円
売上高営業利益率	4.2%
経常利益	250億円
D/Eレシオ※1	1.2倍以下
ROE	7.5%
ROIC※2	6.0%

非財務指標

6つのマテリアリティ	評価指数	2023年度
気候変動への対応	サプライチェーン全体でのCO ₂ 排出量の削減量(2019年度BAU※3比)	22%削減(2030年度目標)
製品の品質と責任	重大品質不具合件数	1件以下
	客先クレーム件数	前年比10%減
労働安全衛生	重篤災害発生件数	ゼロ
	総合度数率※4	4.00
人権への配慮	人権DD実施、結果を踏まえた目標づくりとアクションプラン実行	4製造所で実施
	行動規範、人権、ハラスメント関連の研修実施	96%(ハラスメント防止研修は実施率100%継続)
多様性と機会均等	管理職に占める女性比率(役員含む、国内)	4%
人材育成	後継候補者計画の実施数	国内グループ会社に展開
	重点分野に関する教育支援活動の受益者数	300人/年

※1 劣後ローンの資本性考慮後 ※2 ROIC=税引前営業利益÷(株主資本+有利子負債-現預金)(期首・期末平均)

※3 BAU (Business as usual): 何も対策を講じずに現状(生産量、品種構成)を維持した状態

※4 統計期間中の延べ労働時間あたりの労働災害による死傷者数(不休業を含む)を100万時間で換算した労働災害の発生状況(頻度)を評価する指標

ポイント

目標達成の原動力となる、向上した「稼ぐ力」

第3次中期経営計画は、これまでの中期経営計画のスタート時とは異なり、成長のための長期にわたるUATHやTAAなどへの投資が完了し、設備が立ち上がっている状態でスタートします。そのうえ、フリー・キャッシュ・フローも黒字となっています。今後、旺盛

な缶材需要などに対し増強してきた生産能力を最大限発揮させることで、収益向上はもちろんのこと、財務体質の改善を進めていき、財務指標の目標を達成できる見込みです。

先行投資とキャッシュ・フロー

